



田んぼわらしの ささやき 田んぼ 10 年だより

創刊号

2014.9.10 発行

田んぼの生物多様性向上10年 (略称: 田んぼ 10 年) ニュースレター
発行: NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本 (ラムネットJ) 水田部会
所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F
TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org
ホームページ: <http://www.ramnet-j.org>

目次

田んぼ 10 年プロジェクトがめざすもの ～みんなの力で田んぼの生きものを取り戻そう～ 呉地正行	1
Series 田んぼ 10 年への期待 「田んぼまわりの生きもの天国を再現するために」 浅野正富	2
Series 田んぼ 10 年への期待 「地域と共生の環境に優しいお米づくりを！」 立花一晃	2
Special Report 「コナギを食べて愛でる会」報告 鈴木 康	3
Series 各地の活動紹介 「小山市」&「九重ふるさと自然学校」&「谷当町」	3 & 4
水田部会からのお知らせ	4
田んぼ 10 年プロジェクト参加団体一覧表 ・ (裏面) 登録用紙	(別添)



「田んぼ 10 年プロジェクトがめざすもの」

～みんなの力で田んぼの生きものを取り戻そう～ 呉地正行 (ラムネットJ 共同代表・水田部会長)

この度、田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト (以下、田んぼ 10 年プロジェクト) 参加者の皆様に、田んぼ 10 年プロジェクトのニュースレター・「田んぼ 10 年だより」創刊号をお届けします。

皆さんに参加いただいている田んぼ 10 年プロジェクトは、2010 年に名古屋市で開かれた生物多様性条約会議 (CBD/COP10) を契機に誕生しました。CBD/COP10 では、日本政府の提案により、劣化した生きものの世界を回復するために、2020 年までの 10 年間に行う 20 の具体目標 (「愛知目標」) の実行が決まりました。またラムサール・ネットワーク日本 (以下、ラムネットJ) の発意により「国連生物多様性の 10 年」という幅広い枠組みも出来ました。

ラムネットJ では、これまでにラムサール条約や生物多様性条約会議で、田んぼの生物多様性向上の重要性をアピールする活動を行い、それが両条約での水田の生物多様性向上をめざす決議等の採択に結びつきました。ラムネットJ ではこの決議を背景に、20 の愛知目標に対応する 18 の水田目標と現場で実行できる具体的な行動計画にまとめ、「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト」
<http://www.ramnet-j.org/tambo10/> を立ちあげ、広く参加呼びかけを始めました。

このように書くと大変難しいもののように思われるかもしれませんが、田んぼ 10 年プロジェクトがめざすのは、より多くの皆さんに、行動計画の中で自分ができることを最低一つ選んで、田んぼ 10 年に登録して頂き、一人の百歩よりは百人の一步をめざすことです。個人や団体に関わらず、各地で単独で既に活動を行っている方やこれから始めようと考えている多くの方に、自分ができる範囲で参加し、お互いの交流を深めて頂きたいと思います。それと同時に、これ

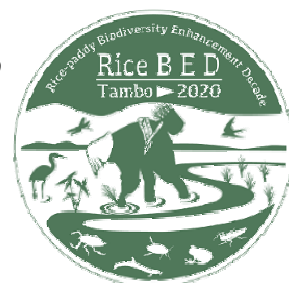
らの現場での一つひとつの取り組みが、国際社会がめざす生物多様性の向上に貢献しているのだということも実感していただきたいと願っています。

3.11 大震災のために予定よりも準備が遅れ、2013 年 2 月に栃木県小山市のキックオフ・シンポジウムで正式に誕生し、その後参加者皆さんの意見交換や交流の場としてメーリングリストの立ち上げや地元での交流会、報告会 (宮城県登米市、大分県杵築市、大阪市など) も行ってきました。今回、参加者の皆さんのお互いの顔が見え、交流に役立つ道具として、「田んぼ 10 年だより～田んぼわらしのささやき～」を創刊し、お届けすることにしました。この「田んぼ 10 年だより」にはできるだけ多くの皆さんに紙面に登場していただきたいと思いますので、その際はご協力よろしくお願いします。

このたよりのサブタイトルの「田んぼわらし」は、田んぼ 10 年プロジェクトのために新たに創ったキャラクターです。岩手県遠野の民話には、「座敷童子 (わらし)」という、屋敷に住み着いた福の神のような子どもの精霊が登場します。「田んぼわらし」は、その田んぼ版で、生きもののにぎわう田んぼだけに住む福の神です。田んぼの生きものの言葉が分かり、そのメッセージを私たち人間に耳元でそと「ささやいて」教えてくれます。皆さんも是非田んぼわらしのささやきに耳を傾けてください。そして田んぼわらしが住み続けられる田んぼを増やしていただきたいと思います。田んぼ 10 年プロジェクトに参加されている皆さんには、この田んぼわらしを含む 2 種類のステッカーセットをお送りするのは是非ご活用ください。

田んぼ 10 年プロジェクトは、国際自然保護連合日本委員会が愛知目標達成をめざして主宰する、民間主導の「にじゅうまるプロジェクト」にも参加しています。また国連生物多様性の 10 年日本委員会が推奨する事業としての認定も受けています。

これから 2020 年までの長い取り組みとなりますが、みんなの力で生きもの豊かな田んぼを取り戻していきましょう。



田んぼ 10 年への期待 「田んぼまわりの生きものの天国を再現するために」

ラムネット」事務局長
浅野 正富



私たちラムサール・ネットワーク日本（以下 RNJ と表記します）は、ラムサール条約の掲げる湿地の保全と賢明な利用の目標を実現して行くための組織として 2009 年 4 月に発足しました。前年の韓国チャンウォンで開催されたラムサール COP10 のために組織された NGO を母体としています。韓国 NGO と協力して日韓両国政府に働きかけ、COP10 で湿地としての水田が生物多様性の維持に果たしてきた役割を評価し、生物多様性を向上させる水田農法の推進・普及をめざした水田決議（決議 X.31）を採択させた成果を踏まえての発足でしたので、ラムネット」の活動の大きな柱の一つは水田の生物多様性の向上をめざす取組です。



水田は日本の国土面積の約 6.5% を占めていますが、そこに春から夏にかけ水が張られて湿地となるのですから、日本の湿地を保全する上で、水田をどのように管理して行くかは極めて重要です。しかし、以前はそのような考えは一般的でなく、2005 年に「蕪栗沼と周辺水田」と水田を特記した初のラムサール条約湿地が登録されたころから、ようやく湿地としての水田が注目されるようになりました。そして、蕪栗沼周辺でマガンの餌場の確保のために始められた冬期湛水水田は、「ふゆみずたんぼ」と呼ばれるようになり、生物多様性の向上を図る農法として普及するようになって、水田決議に繋がりました。

60 年くらい前までのかつての日本は、雑木林から河川、湖沼に至るエコトーンの一部に水田があり、ほとんど農薬や化学肥料には頼らない循環的な農法による稲作がおこなわれ、ホタル、ドジョウ、メダカ、タガメ、カエル、トンボ等々田んぼまわりの生きものの天国でした。その生態系の頂点にコウノトリやトキがいて、江戸時代にまで遡れば、全国でコウノトリやトキの姿を見ることができたのです。

その光景の再現をゴールとしながら、そこに少しでも近づいていくことを、田んぼ 10 年プロジェクトはめざしています。そのようなイメージを共有して、ラムネット」と皆様がより一層力を合わせて行けたらと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



田んぼ 10 年への期待 「地域と共生の環境に優しいお米づくりを！」

三番瀬のラムサール条約への登録を実現する会
立花 一晃

私は、永い教員生活を退職後、三番瀬の保全運動に係る中で環境問題の重要な課題の一つとして、呉地氏が取り組む「冬みずたんぼの米づくり」に強い関心を抱きラムネットの発足と同時に「水田部会」に参加してきました。

私は、自分の地域で、この環境に優しい「お米づくり」を実施している「野田自然共生ファーム」に 4 年前から参加しました。

「野田自然共生ファーム」では、農薬を可能な限り使用しないお米づくりを目指して市民参加の趣旨に賛同して、私は三番瀬の保全の仲間と共に取り組んできました。この取り組みは、「農業と自然の共生地域づくり」をお米づくりで実現を目指すものです。同時に、最大限に自然な周辺環境を残すべくコウノトリの飼育に取り組んでいます。現在は、東京動物園協会多摩動物園から平成 24 年 12 月にやってきた 1 組のつがいのコウくんとかちゃん（のちの 1 羽は死亡）大切に成育しているところです。共生ファームの周辺・江川地区には、他にも希少な動植物が生息しています。こうした自然環境を保全する取り組みを地域の人々やこの取り組みに賛同する市民が力を合わせて実行しています。

この取り組みを推進している根本野田市長は、現在関東地域市町村でつくる自治体協議会の会長として豊岡市の取り組みなども協同して進めています。

私たちは、これからも千葉県民を対象にした取り組みを三番瀬の海の生物多様性に富む環境保全の取り組みと協働の取り組みとして進め、全国的にもお米の生産で有数の県である千葉県の環境保全を大切にする取り組みを推進していきたいと願っています。



（写真）三番瀬の夕景

中貝宗治豊岡市長は、「コウノトリの野生復帰事業は、鳥だけの問題ではなく、人間や地域全体の問題であると述べています。

こうした目標が今回の「田んぼ 10 年」と一致すると確信し、この企画が、全国に広がることを大いに期待しています。



「コナギを食べて愛でる会」

日本雁を保護する会 鈴木 康

「コナギ」は水田雑草の代表格といえる存在です。これを除草するのではなく「収穫」して食べて愛でようという企画が7月12日(日)、宮城県大崎市田尻町で行われました。この企画は水田決議円卓会議準備会*の呼びかけにより、農水省・環境省の職員有志や地元農家、自然保護関係者 20 数名が、ラムサール条約登録湿地「蕪栗沼・周辺水田」のふゆみずたんぼ農家・齋藤肇さんの田んぼに集まって開かれたものです。

齋藤さんの無農薬の田んぼに到着すると、稲の株間にコナギが元気に育っていました。いつもなら厄介者として除草されますが、この日は「収穫」です。葉はハート型で可愛らしく、青く小さな花を咲かせます。田んぼに入り、コナギを愛でたり田んぼにすむ生きものの気配を感じながら収穫しました。各自収穫したコナギは、齋藤さん宅で自分で洗って下ごしらえし、目の前で天麩羅にして、揚げたてをいただきました。あらかじめ収穫したコナギも様々なメニューで振る舞われました。齋藤さんのお母様・豊子さんを料理長に、この日登場したコナギ料理は 9 品目にもなりました（混ぜご飯、あつもの、炒め物、キムチ、サラダ）。作業場に敷かれたゴザに車座となって始まった食事で、皆さんから次々と料理に手が伸びる様子はそのおいしさを物語っていました。コナギは茹でるとシャキシャキした食感で、わずかに独特の後味も感じますが、この日は重曹を加えて下茹でする等の工夫もされていました。また、特に天麩羅にすると後味は気にならず、好評でした。

コナギは万葉集にも詠まれ、古来は食材とされていました（東南アジアでは現在も）。コナギの栄養分析から、一般的な野菜に比べてタンパク質等の栄養価が高いことも分かっています。参加者から「鉄分やビタミンの含有量は？ 女性は特に気になる。」等の質問も出され、次の展開のヒントになりそうです。おいしくて栄養価も高いとなれば、もう雑草ではなくなります。今回のコナギの企画は、田んぼが「ご飯もおかずも採れる多様な食材の生産の場」として、新たに田んぼに関心を持つ人たちを増やす可能性を秘めていると感じました。



注：*＝ラムサール・ネットワーク日本が農水省、環境省、国交省に呼びかけ、2008 年に誕生。NGO と関係省庁で水田の生物多様性に注目した議論を行う円卓会議でほぼ毎月開催されている。



各地の活動紹介

登録会員の活動を
ご紹介します。

栃木県

ラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地 賢明な活用推進事業

山路 直人

小山市では、渡良瀬遊水地がラムサール条約湿地に登録されたのを機に、「賢明な活用の 3 本柱」を掲げ、その推進事業に取り組んでおります。

特に、環境に優しい農業として無農薬・無化学肥料による「ラムサールふゆみずたんぼ米」の栽培を 8 戸（4ha）の農家で行っており、ドジョウや小魚が年中生息できる環境整備にも繋がっています。昨年度は、そのふゆみずたんぼに白鳥が 11 羽飛来するなど、成果も徐々に現れ始めています。また、「ふゆみずたんぼ」というブランドを活かし、「この酒小山のラムサールふゆみずたんぼ米」と銘打った日本酒を販売するなど普及啓発にも努めています。



大分県

九重ふるさと自然学校 自然共生型田んぼづくり

阿部 秀幸

“トキもすめるような田んぼ”を目指し、自然共生型の田んぼづくりに取り組んでいます。無農薬の徹底に加え、オタマジャクシがカエルになるまで中干を延期する（田んぼの水を切らない）ことや、冬でも田んぼの一部には水がある状態を保つなど、“生きものがすみやすい田んぼ”になるように管理します。生物調査なども行いながら、米づくりをすることが生きものの生息場所を増やすことにつながるような田んぼづくりを実践しています。このプロジェクトは国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携事業として認定されました。



三年目を迎えた 千葉市若葉区谷当町の「ふゆみずたんぼ」

NPO 法人バランス 21・谷当里山計画 理事 織内 勲

四街道市と佐倉市に挟まれた 5 反歩（約 5,000 m²）の耕作放棄地を千葉市（環境保全課所管）から 5～10 年の期間で借用し、「冬季湛水・不耕起・無農薬・無化学肥料での稲作」を目指し、2012 年にスタート。約 3,500 m²の再生田んぼでは、稲が順調に生育しています。現場は両側山林に挟まれ、奥に湧水池がある緩やかな棚田で、千葉市が環境保全地域としているこの場所では、周辺山裾の珍しい植物類も多く、昨年から一部で生き物と植物の観察を、専門家の助力を得て開始しました。 <http://balance21.jimdo.com/>



水田部会からのお知らせ

CBD/COP12 で、展示・発表します！

10月6日～10月14日に韓国のピョンチャンで開催される生物多様性条約第12回締約国会議(CBD/COP12)において、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの取り組みを紹介する展示を出展します。

会議にご出席される方は、是非、見に来てください。

また、韓国 NGO と協働で開催する活動報告会でも、日本の田んぼ10年の取り組みを、世界の皆様に発表します。

田んぼ10年プロジェクトの シールができました！

田んぼ10年プロジェクトのイメージキャラクター「たんぼわらし」と、海外への発信を意識した生物多様性と稲作の図柄の2種類のシールができました。登録会員の皆様にお送りします。お好きな物に貼り付けて、楽しんでご活用ください。



田んぼ10年プロジェクトの 仲間を増やそう！ご協力のお願い

別添の田んぼ10年参加団体リストのとおり2013年のキックオフ会議以来、着々と登録会員数を増やしてきた田んぼ10年プロジェクトです。大きなうねりとなって日本の生物多様性向上に貢献する田んぼ10年プロジェクトとするためには、仲間を増やすことが大切です。

お知り合いの農家さん、登録のない都道府県など、登録会員さんから、仲間の輪が広がればまさに百人力！

本誌に同封した田んぼ10年プロジェクトの登録用紙を是非ご活用ください。

皆様からのご意見・ご感想 ご投稿をお待ちしています！

まずは、創刊号の発行に至りましたが、このニュースレターは、登録参加している皆さんが主役です。「もっとこういう情報が欲しい！」「私の取り組みも載せて！」等々、皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

各地の取り組みは、毎号続けていきますので、250字程度にまとめて、写真を添えてお送りください。

今回ご紹介した「コナギを食べる会」のような田んぼのイベント企画などのご案内もあれば是非お寄せください。

次号からは、PDFで良い…という方は、お申し出ください！

創刊号は、シールの送付がありましたので、紙媒体で送付いたしましたが、次号以降、「PDFでよい」という方は、その旨、ラムネット事務局までご連絡ください。

次号からは、PDFでお届けいたします。郵送費および紙資源の削減にご協力ください。

連絡先/事務局

ラムサール・ネットワーク日本

info@ramnet-j.org

FAX: 03-3834-6566

